

児童養護施設における子どもの育ちの環境

～施設職員における発達期待と学習期待の特徴～

○齊藤千鶴¹・向井隆代²・佐伯素子³

(¹ 東京福祉大学心理学部・² 聖心女子大学文学部・³ 聖徳大学人文学部)

[問題と目的] 近年、子ども虐待の増加とそれにとまなう子どもの児童養護施設への入所が増加し、児童養護施設での育ちについて関心が増している。齊藤・向井・佐伯・目良（2008）では児童養護施設をめぐる心理学に関連する研究動向として1）でもグラフィックデータや実態調査、2）入所児童の行動や情緒のアセスメントに焦点をあてた研究、3）入所児童の家族や家庭、親に対する感情やイメージに関する研究、4）職員の感情研究、5）入所児童の治療など臨床実践に関する研究、6）家庭引取り・卒後に関する研究、と分類し、研究動向について検討を加えた。その中で明らかとなったことは、子ども自身の行動や情緒を査定するような内容の研究や臨床的介入に関する研究は相当数の蓄積があるのに対して、児童養護施設という環境が子どもたちにどのような影響を与えるのかという点や直接的な養育の従事者である職員のかかわりの基盤となる、子どもの育ちに対する考え方や価値観といった人的環境に対する心理学的な研究がほとんどなされていないことである。一般に、親による養育態度や養育観の研究は、東・柏木・ヘス（1981）を引き合いに出すまでもなく、発達心理学では古くからとりまれている主要なテーマである。児童養護施設における養育観、つまり発達期待や学習期待についてここではとりあげ、その特徴を明らかにすることを目的とする。

[方法] 対象：0-3歳の乳幼児を必ず含む子どもを持つ父母（平均33.5歳，SD±4.1），児童養護施設職員49名（平均30.1歳，SD±11.3）を対象とした。調査内容：東・柏木・ヘス（1981）で用いられた質問紙、DEQ（Developmental Expectation Questionnaire）とMTQ（Mother Teacher Questionnaire）の2種類、計61項目を実施した。本稿ではDEQを学習期待、MTQを発達期待として用いることとした。DEQは10種の質問文をペアとして組み合わせて計20問とし、各ペア（2項目）のいずれかを選択する方式、MTQは各質問文に対して3種の年齢段階（4歳になるまで、4,5歳頃、6歳過ぎ）の中からふさわしい年齢を1種選択する方式で回答を得た。手続き：乳幼児をもつ父母については協力機関の同意をえた後、配布し郵送による任意回収とした。施設職員には関東近県の3施設に依頼した。

[結果と考察] 1）学習期待（DEQ）に見られる特徴 全10項目（例：正しい言葉を話すこと、おもちゃを友達と一緒に遊ぶこと）の選択傾向を得点として優先傾向の高い項目は「ものごとを人と一緒にしたり、かわりばんこすること」「おもちゃを友達と一緒に遊ぶこと」といった協調性に関する項目であり、「新しい言葉の意味を覚えること」「数を数えること」といった学業に関連するスキルを優先しない傾向は、職員も乳幼児をもつ親でも同様であり、10項目いずれも優先傾向に有意な差は認められなかった。2）発達期待（MTQ）にみられる特徴 計41項目を原著（東・柏木・ヘス，1981）に基づき内容に即してカテゴリーわけし、言語関係スキル、従順、礼儀、情緒的成熟、自立、社会的スキル、言語による自己主張の7領域に分け、領域ごとと項目別の2種のレベルで職員と乳幼児をもつ親との得点の傾向を比較した。その結果、領域ごとでは有意水準5%レベルでは4領域（10%を含めると5領域）において統計学的有意差が認められ、いずれも乳幼児をもつ親に比べて職員の発達期待が年齢的観点では緩やかな傾向が伺えた。これら結果から明らかになったことは、学習や発達に関して重視する内容について施設職員と一般乳幼児の親との間に相違はなく、対人関係上のスキルの獲得をより重視するのに対して、種々のスキルの速さに対する期待が施設職員は一般の乳幼児をもつ親に比すると緩やかであるといえよう。

table1 施設職員における発達期待の特徴

	職員		乳幼児の親		t値
	M	SD	M	SD	
学校関係スキル	8.27	0.79	7.29	1.32	5.99 ***
従順	10.15	2.09	9.59	2.12	1.55
礼儀	4.74	1.48	4.86	1.24	-0.47
情緒的成熟	8.25	1.85	7.26	1.99	2.99 **
自立	19.23	2.31	18.02	2.15	3.14 **
社会的スキル	13.15	1.86	12.17	2.58	2.75 **
言語による自己主張	12.67	1.96	11.92	2.35	1.95 +

p<.01,*p<.001,+ p<.10.

*本研究は平成23年度科学研究費補助金基盤研究（C）（課題番号：23530922，研究課題：児童養護施設入所児童の発達と可塑性・サクセスフル・アダプテーションを支える要因：追跡研究，研究代表者：向井隆代）の助成を受けて行われた。